

B-1 オークション出品者の特徴分析による信頼度の提示方法

軽部 豊

ビジュアルインタフェース研究室

1. 目的

ネットオークションは個人同士が取引を行うためトラブルが比較的多い。本研究では、すべてのユーザーが少しでも多くの心配や不安を軽減し、安心してネットオークションを利用できるようになればいいと思い、出品者の特徴を分析し信頼度を提示することを提案する。トラブルの原因として、ネット上で取引するので、やはり取引相手がどんな人か分かりにくいということがある。そこで少しでも多くの取引相手の情報が必要であると考えた。

2. 研究

出品者の信頼度提示のため、本研究では下記の順番で研究した。

- ①取引所要時間に注目した。
- ②オークション出品者の取引の平均所要時間を算出するプログラムを作成した。
- ③プログラムを使用し、ランダムに出品者を調査した。
- ④調査結果から基準となる日数を決定した。

対象としては、所要ユーザーが多く有名である Yahoo オークションを利用した。信頼度のはかる基準として、時間という数値で扱えることから、落札後から取引終了時間までの取引所用時間に注目した(図1)。

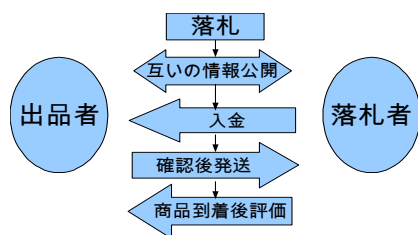


図 1 落札後の取引終了までの代表的な流れ

まず、ホームページから落札時間と評価時間を抽出し、取引所要時間を算出できる Perl のプログラムを作成した。Perl を用いたのは、文字の抽出に向いているからである。

そのプログラムを使い、ランダムに選んだ約 150 人の出品者からデータを収集した。そこから取引所要時間と、取引終了時に互いを評価しあう評価ポイントの関係を調べた(図2、図3)。

3. 調査結果から分かる特徴

図2から、悪い評価ポイントのない人は、取引の所要時間が短めであることが分かり、図3からは評価ポイントの低い出品者ほど、取引の所要時間が3日から 11 日と幅広く、評価ポイントが高くなるにつれ範囲が狭くなっていることが

わかる。

両方の調査より、悪い評価がついていない人の取引の所要時間の山が6~7をピーク、取引実績の多い人も平均的には6~7日までに取引を終わらせていること、図3より6~7日に分布が集中していることが分かった。そこで、信頼度の判定基準を余裕持たせ7日に決定し、それより早ければ信頼度が高いと表示することにした。

4. まとめ・今後の課題

このシステムにより、目当ての商品の出品者の取引の平均所要時間・信頼度を表示させることで、その出品者がどんな人か現在より多くの情報が入るため、ユーザーは以前より判断しやすくなったと考える。

取引の平均所要時間は、取引終了までの時間の目安として把握できるため、何か問題があった際、早く気がつくことができ、トラブルを未然に防ぐことができる。また、トラブルの可能性、いち早く対応もできる。

今後の課題として、ユーザーがより安全に取引が行えるように特徴分析の項目を増やし、信頼度を数値やパーセントといった判断しやすいもので表示する必要がある。

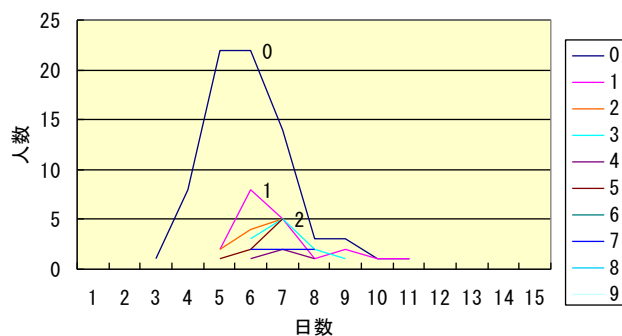


図 2 悪い評価ポイント数別 取引所要時間

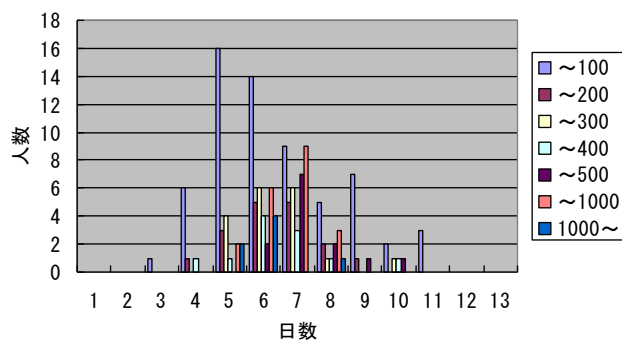


図 3 評価ポイント別 取引所要時間